

清心道中金持草鞋 六

房館銀行

逍遙文庫

文庫 6

1004

18

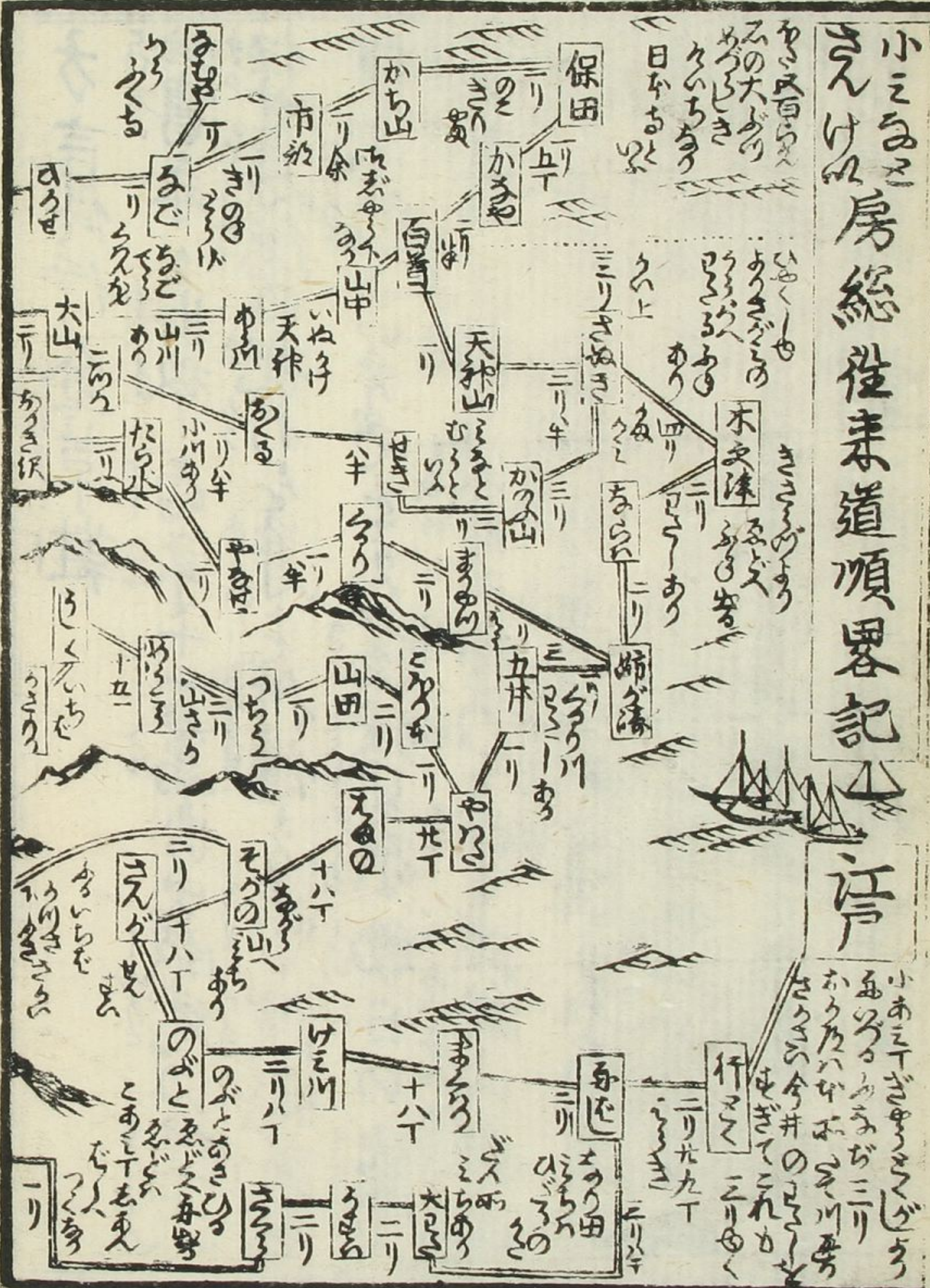


文庫6  
1004  
18

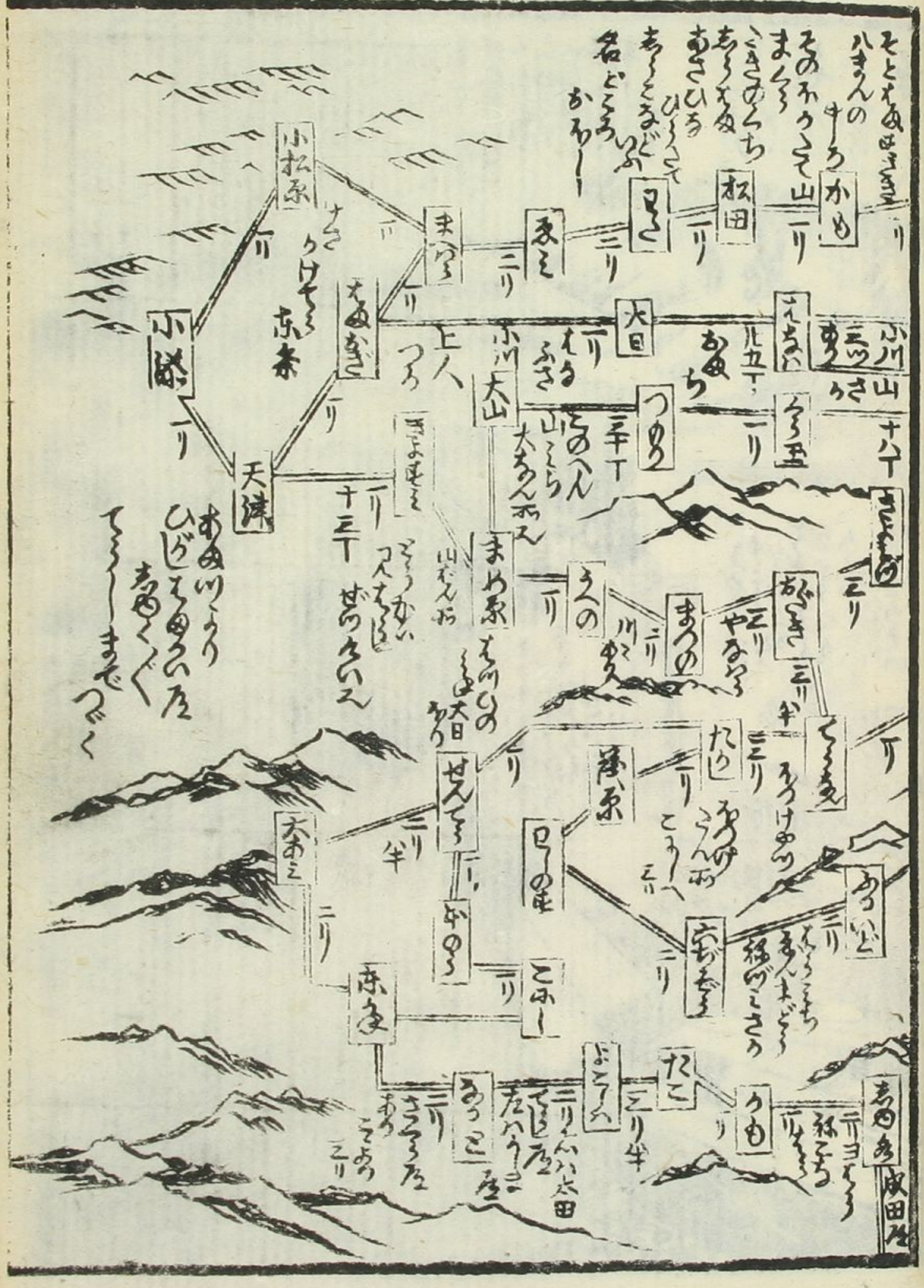
方言修行金草鞋

此書年々出版。萬年十七篇の元注文  
 俣野房徳の記行を著述行徳より始り淡樹道を  
 徑て小湊小いづろそまより法任豆原初日の峯  
 釜栗小糸宿濱中ふ出る乃を記し麻能山鋸山  
 保田屋澤名古観音等八淡樹道のうちあり其外  
 名所古跡濃山山香かまは亦信八登戸無河本更津松  
 百首天神山ありの海上相列浦度へは万里敷追清  
 例の狂詠滑稽の詞をそえて新撰となす事志す程

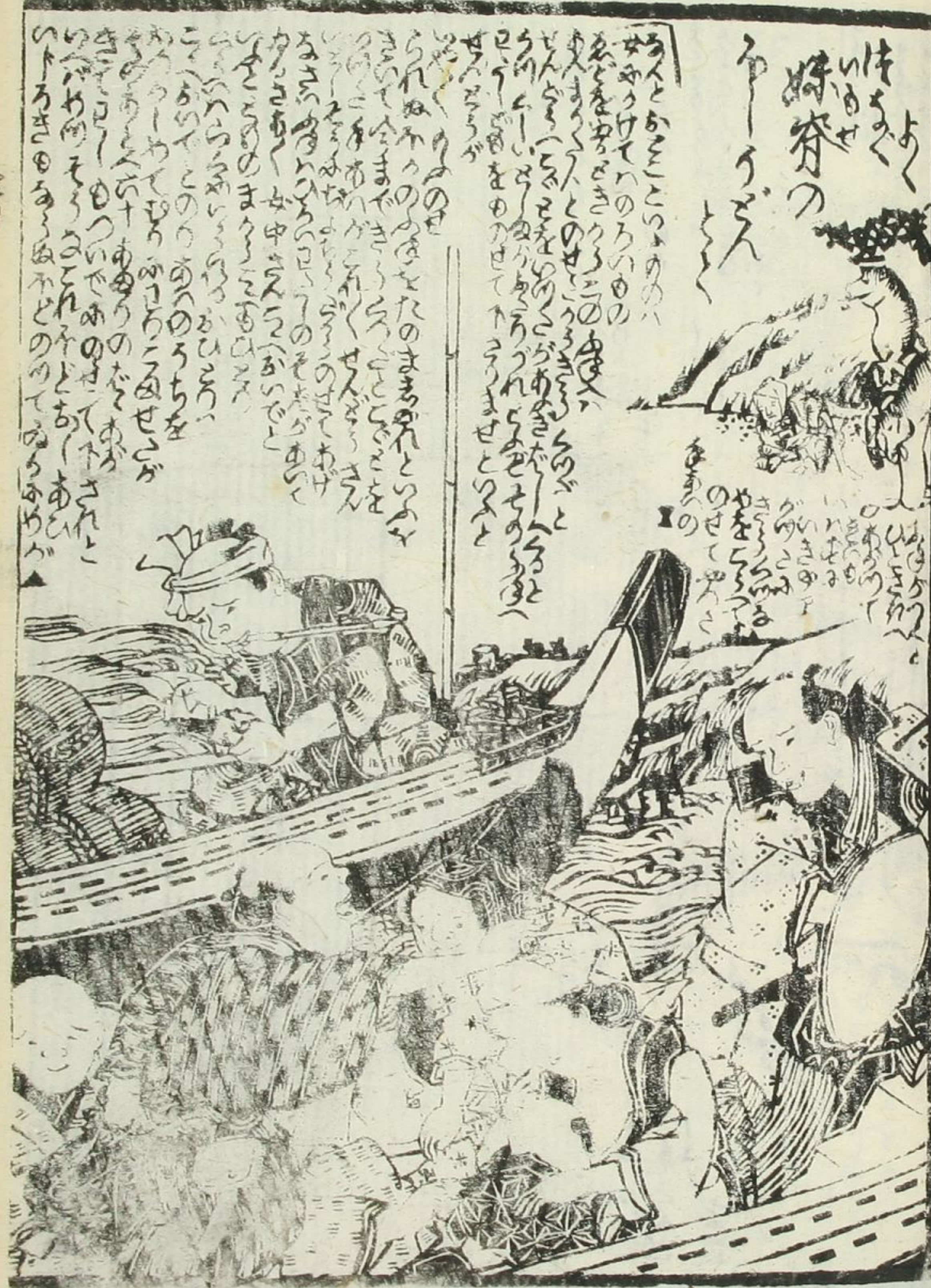
小三郎の房総往来道順畧記



小三郎の房総往来道順畧記  
此の道は房総の往来に  
最も便なる道なり  
其の道は山を越え  
川を渡る事少  
し故に舟車共に  
利便なり



小三郎の房総往来道順畧記  
此の道は房総の往来に  
最も便なる道なり  
其の道は山を越え  
川を渡る事少  
し故に舟車共に  
利便なり







新野の我増



三河が寒



巴



濱の野井



原

55





河舟の趣  
 舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの



河舟の趣  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

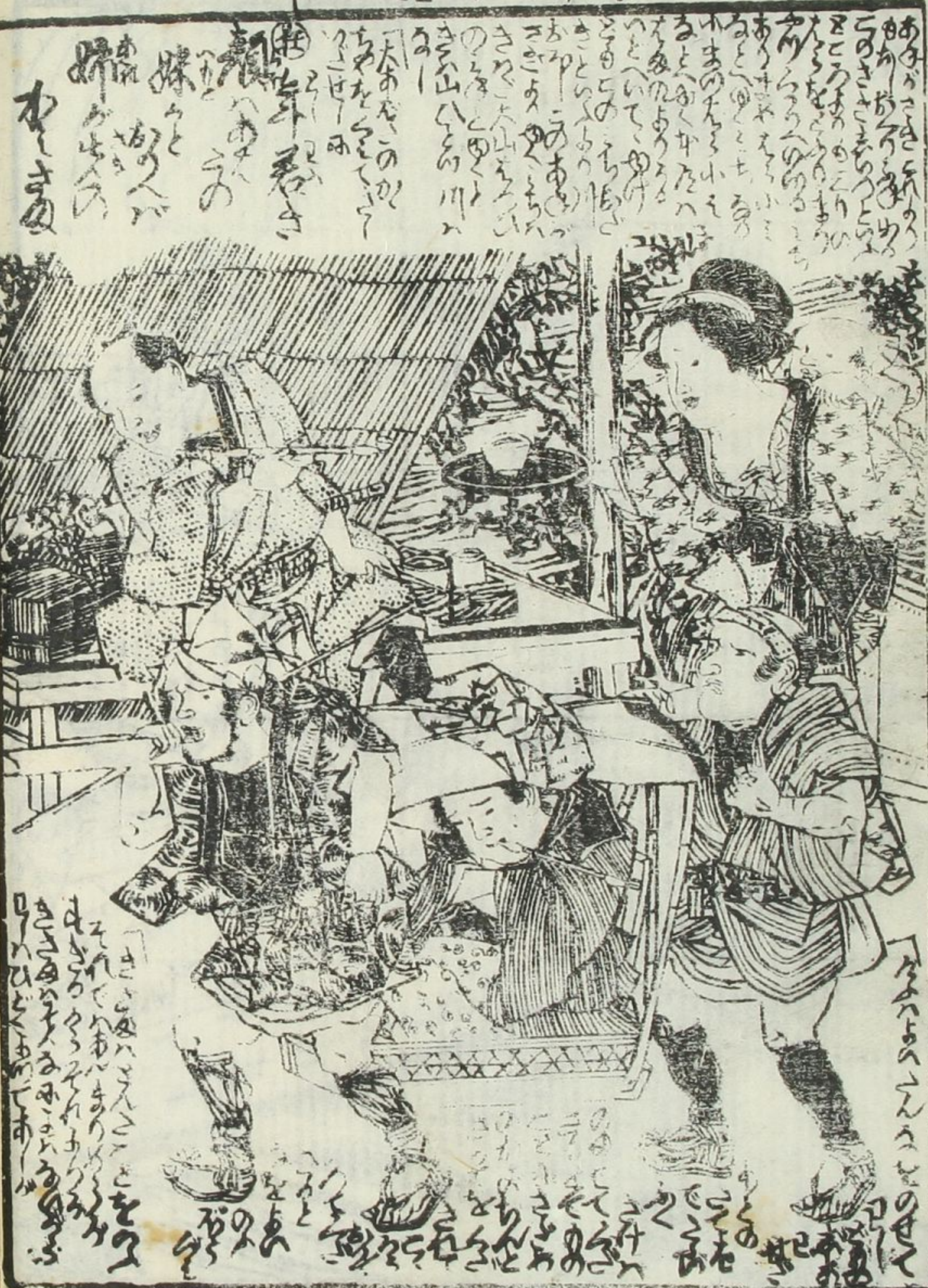
舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

舟のなかの  
 舟のなかの  
 舟のなかの

可崎さし小姉者

唐



一歩一歩の歩

ハ

あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり



あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり

あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり

あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり

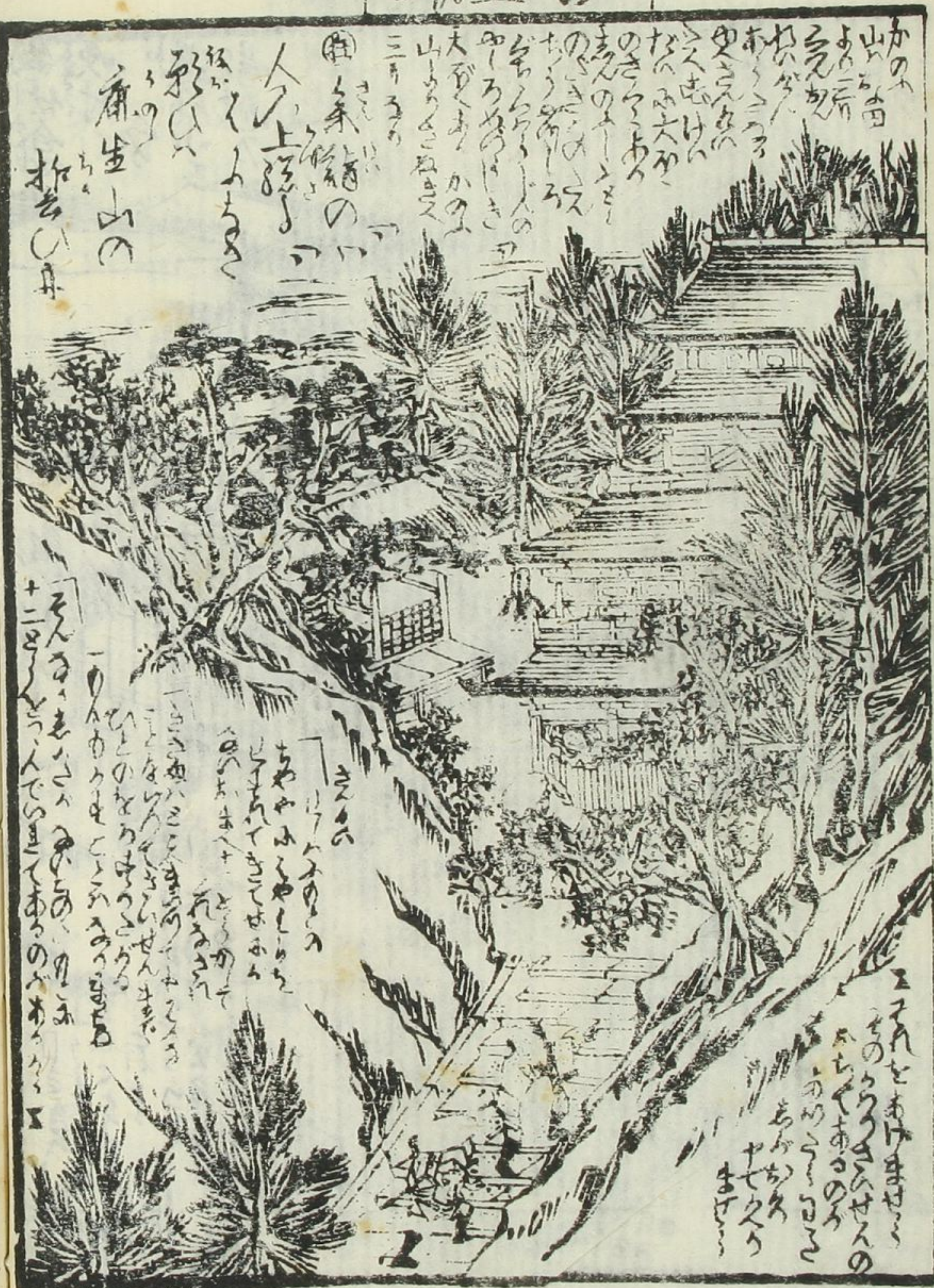
あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり  
あつがさへおとし  
らむささききり



佐々木貫一



鹿の生山



百首



天と神の山





保田



保田の山は、昔より名高く、その山頂には、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、

保田の山は、昔より名高く、その山頂には、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、

勝山



勝山の山は、昔より名高く、その山頂には、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、

勝山の山は、昔より名高く、その山頂には、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、  
 大いなる石塔あり、此の石塔は、  
 天竺より傳へられたり、其の石塔は、  
 高さ五丈あり、其の石塔は、





可瀬世廣



可後加



和歌多行



Handwritten text in the upper portion of the right page, including the title '和歌多行' and several columns of vertical writing.

Handwritten text in the lower portion of the right page, continuing the vertical columns of writing.

江ノ多行



Handwritten text in the upper portion of the left page, including the title '江ノ多行' and several columns of vertical writing.

Handwritten text in the lower portion of the left page, continuing the vertical columns of writing.

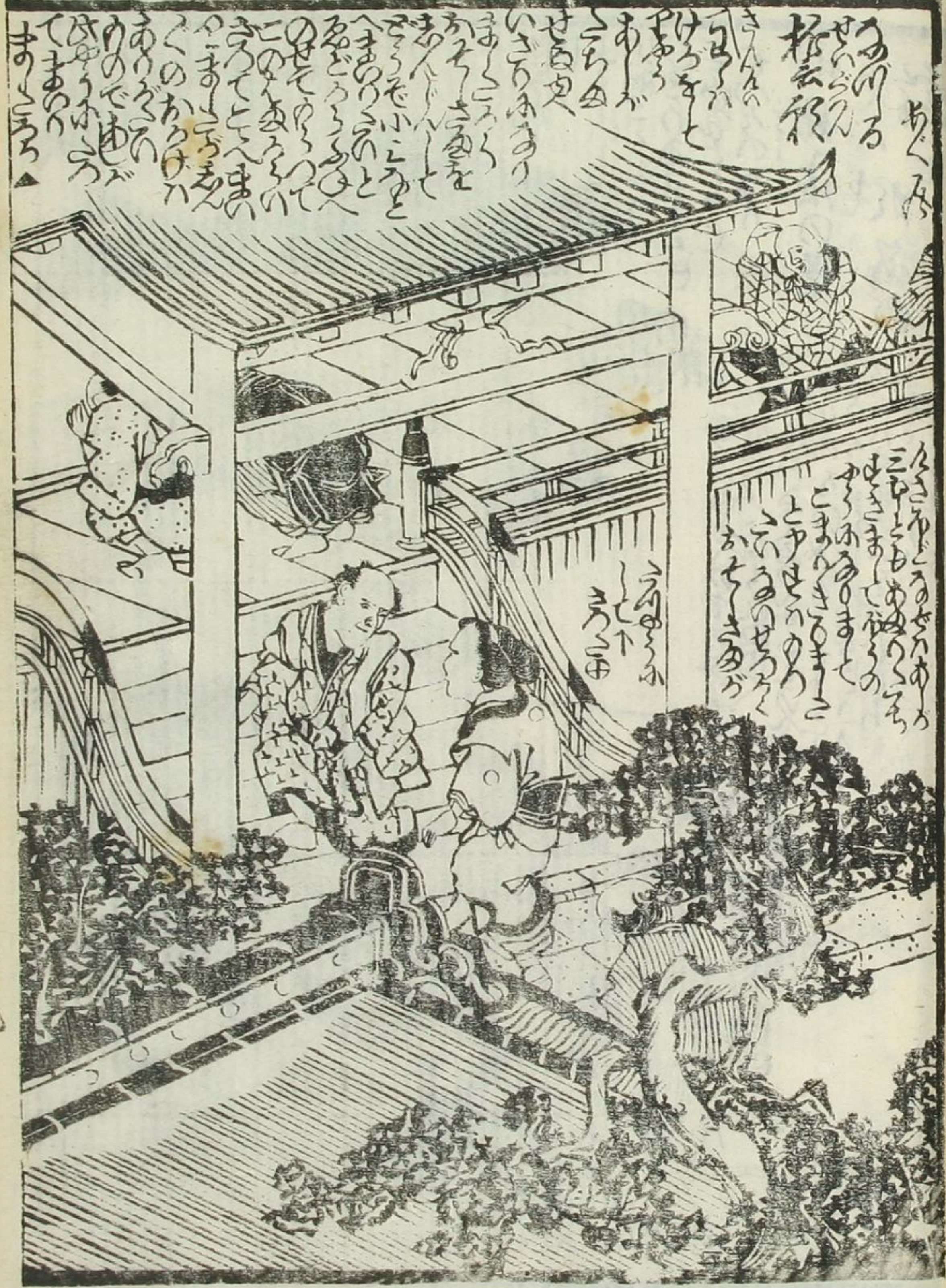
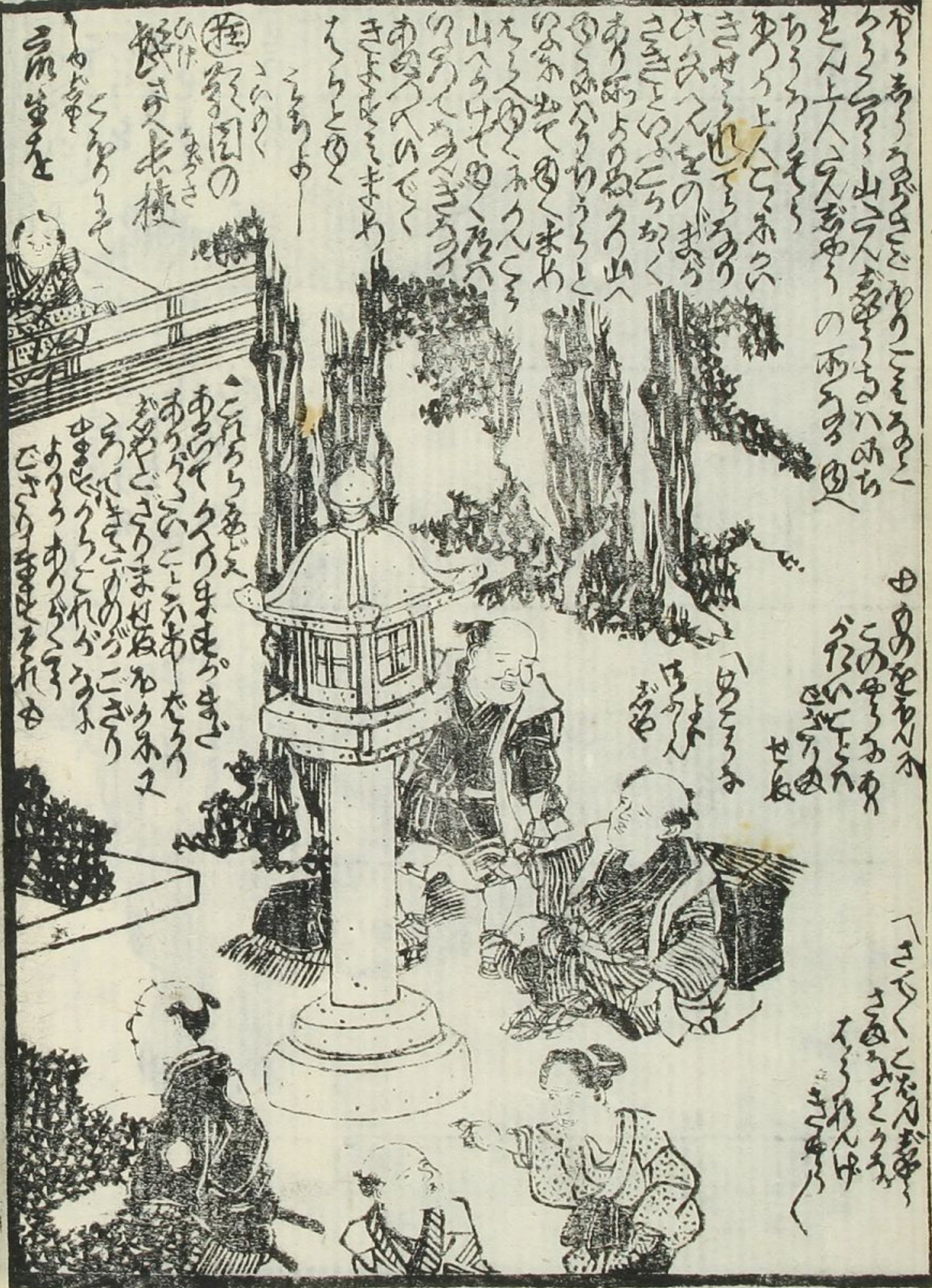
小松原



新原



小漆下



澄と清



天の津可下



豆原の明峰



此の山は...  
 豆原の明峰...  
 此の山は...  
 豆原の明峰...  
 此の山は...  
 豆原の明峰...

豆原

二十

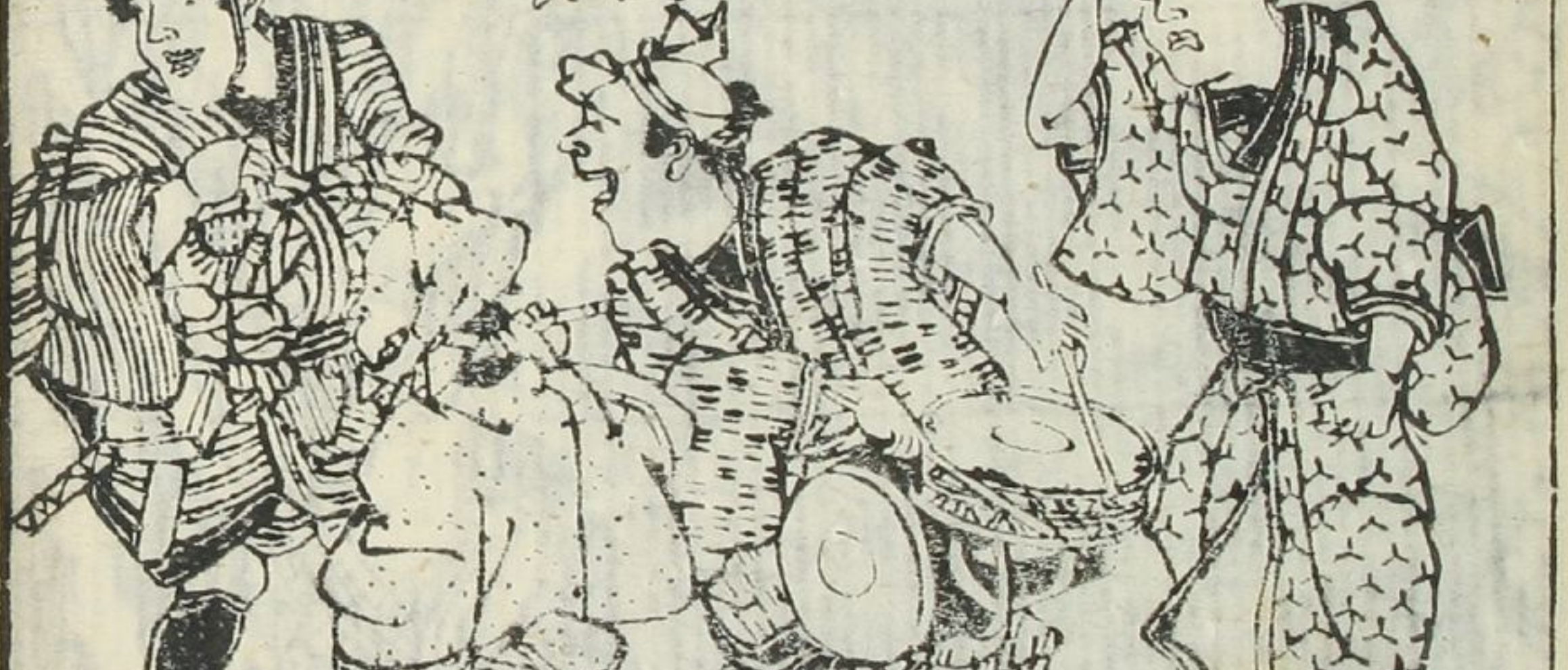


此の川は...  
 豆原の明峰...  
 此の川は...  
 豆原の明峰...  
 此の川は...  
 豆原の明峰...

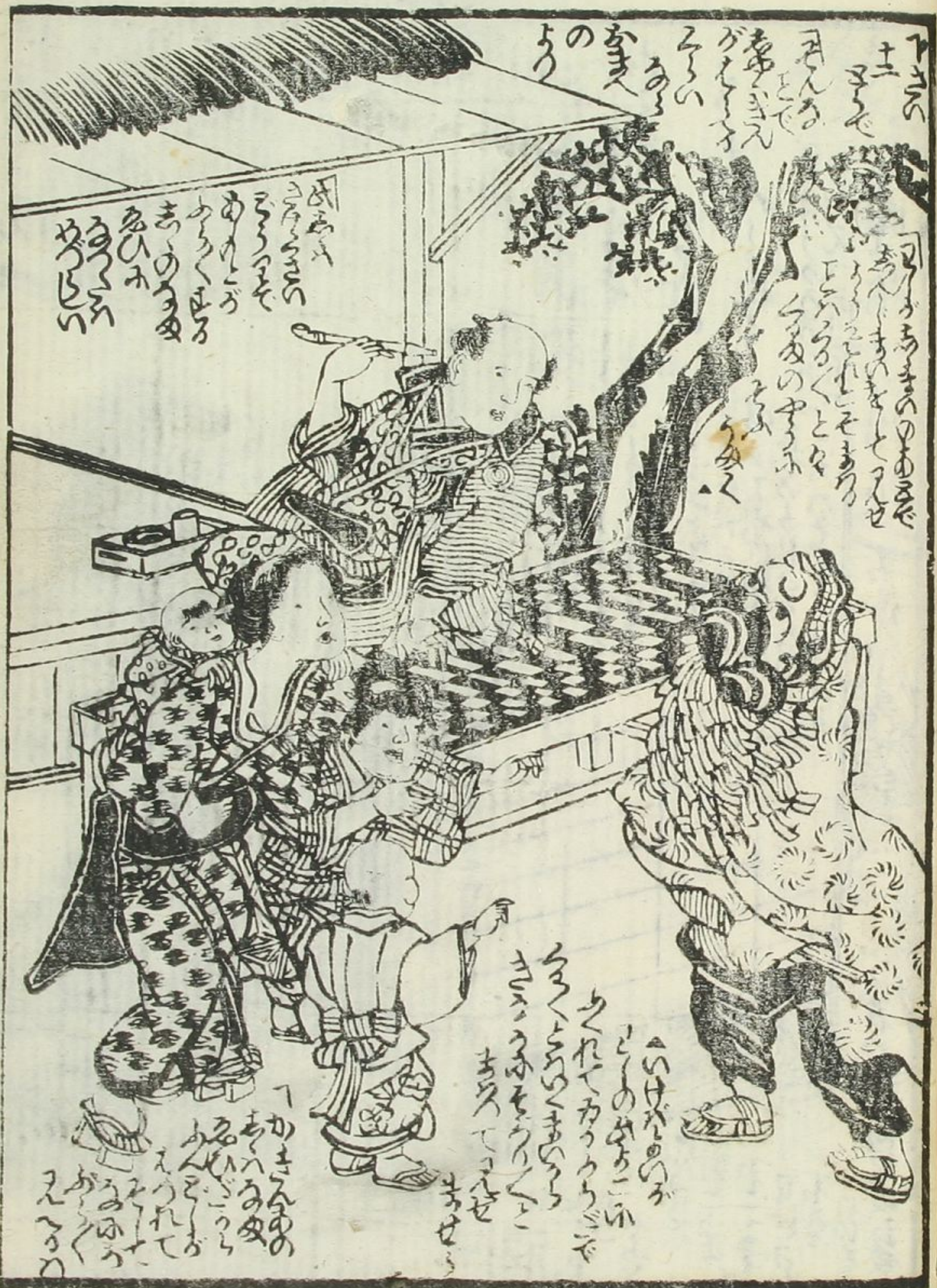
豆原の明峰...  
 此の川は...

野の松

まの尻尾のうろくく入るあの  
 まのさきさかふの川とあり  
 十月より二月までなつらる  
 それなりぬま川がなつらる  
 こままのふたに川がなつらる  
 をせきでかきかき  
 ①はまのくちまの  
 ころろののののの  
 ころろののののの  
 ころろののののの



まのさきさかふの川とあり  
 十月より二月までなつらる  
 それなりぬま川がなつらる  
 こままのふたに川がなつらる  
 をせきでかきかき  
 ①はまのくちまの  
 ころろののののの  
 ころろののののの  
 ころろののののの



まの尻尾のうろくく入るあの  
 まのさきさかふの川とあり  
 十月より二月までなつらる  
 それなりぬま川がなつらる  
 こままのふたに川がなつらる  
 をせきでかきかき  
 ①はまのくちまの  
 ころろののののの  
 ころろののののの  
 ころろののののの

まの尻尾のうろくく入るあの  
 まのさきさかふの川とあり  
 十月より二月までなつらる  
 それなりぬま川がなつらる  
 こままのふたに川がなつらる  
 をせきでかきかき  
 ①はまのくちまの  
 ころろののののの  
 ころろののののの  
 ころろののののの

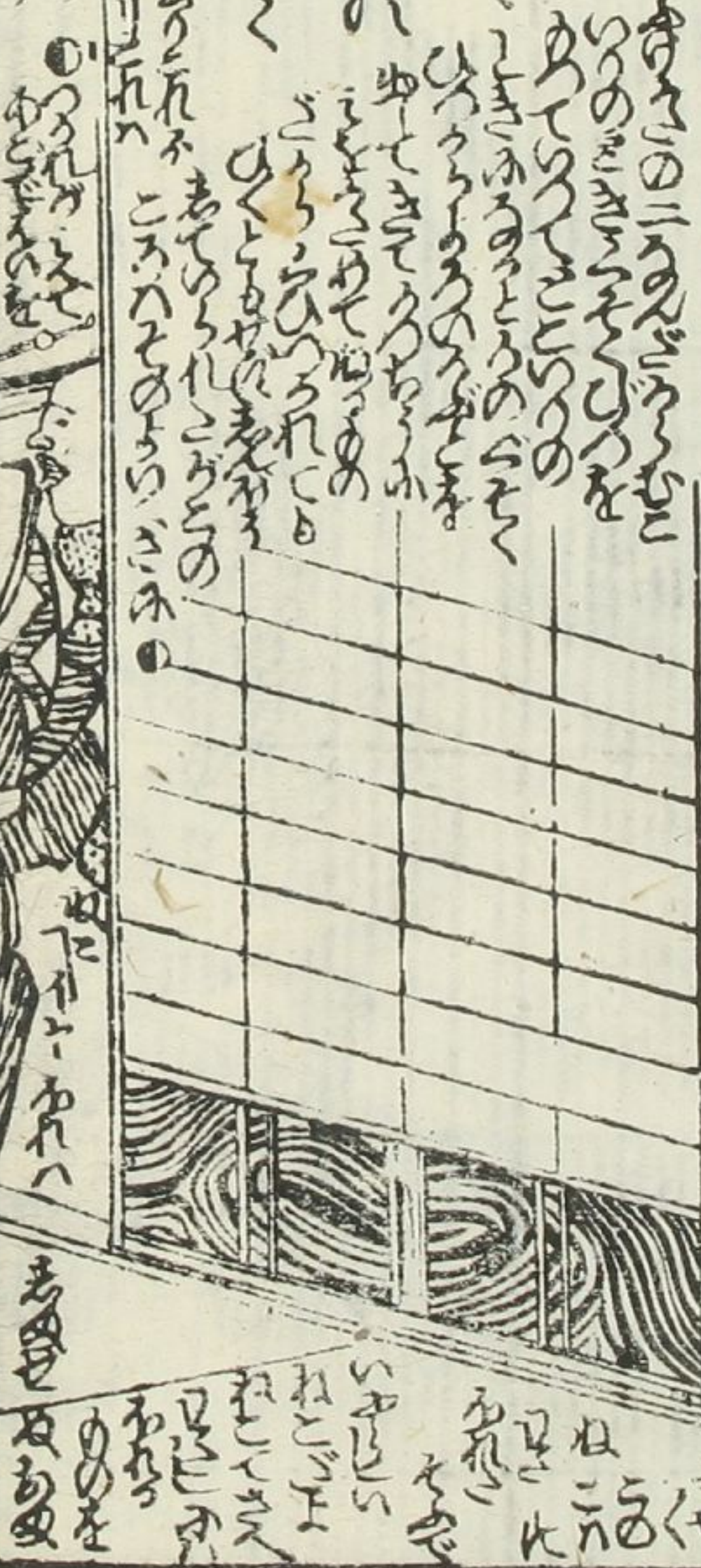
大盛 下

おんなのちりあ  
あ、へ、い、あ、り  
先んより申さるる  
まうのうらさる  
さうのぬらさる  
うさるぬらさる  
うのぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる



「おんなのちりあ  
あ、へ、い、あ、り  
先んより申さるる  
まうのうらさる  
さうのぬらさる  
うさるぬらさる  
うのぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる

洗物ぶりの  
うさるぬらさる  
うのぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる  
うぬらさる



あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの

あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの  
あつめいさの









原景





しんせいのしん





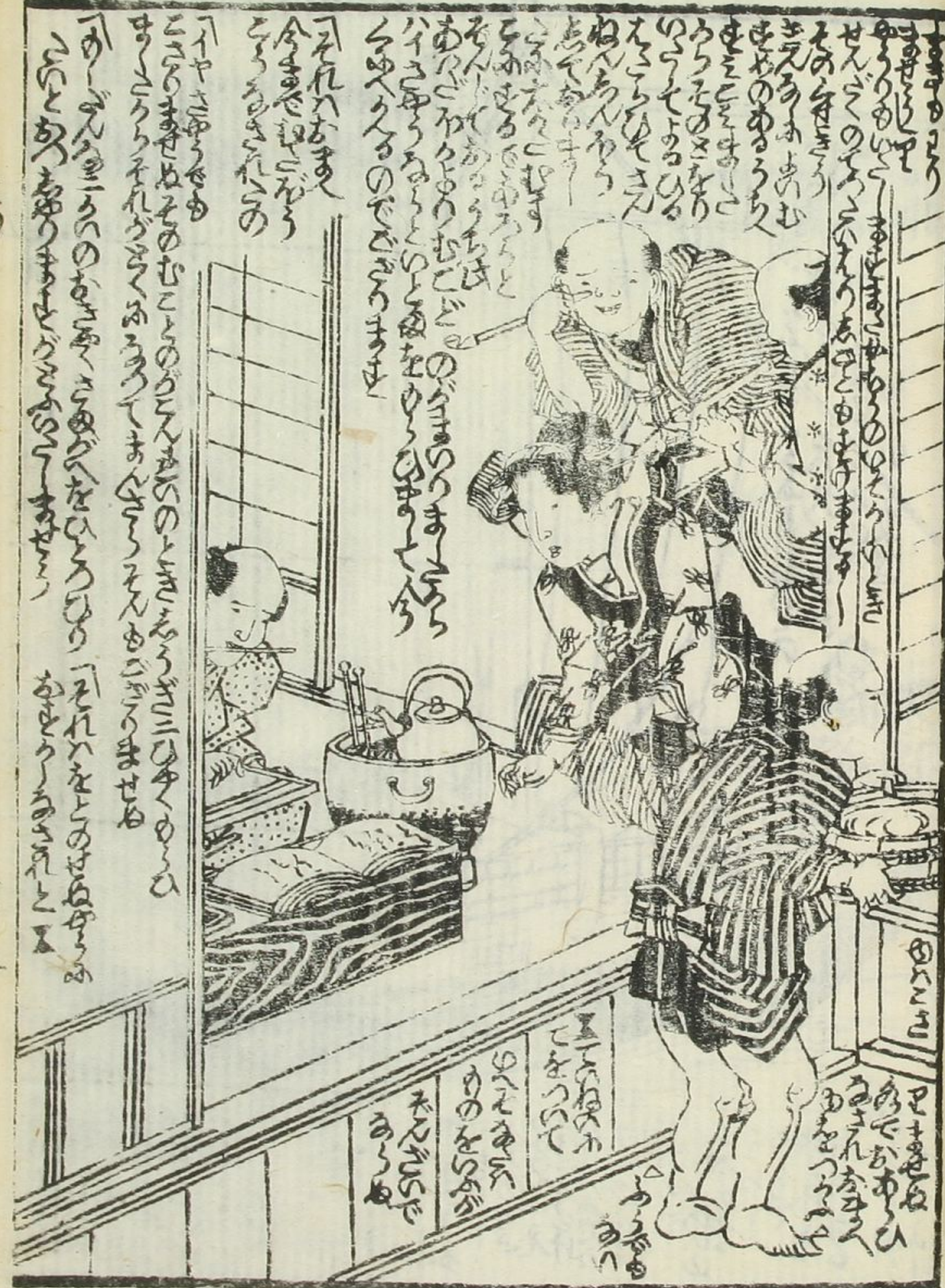
三 土井の巻

おれはさういふおれはさういふ  
 多きまをいふまをいふ  
 二のえらまをいふ  
 それらうちのえらまをいふ  
 のうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ

おれはさういふおれはさういふ  
 多きまをいふまをいふ  
 二のえらまをいふ  
 それらうちのえらまをいふ  
 のうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ



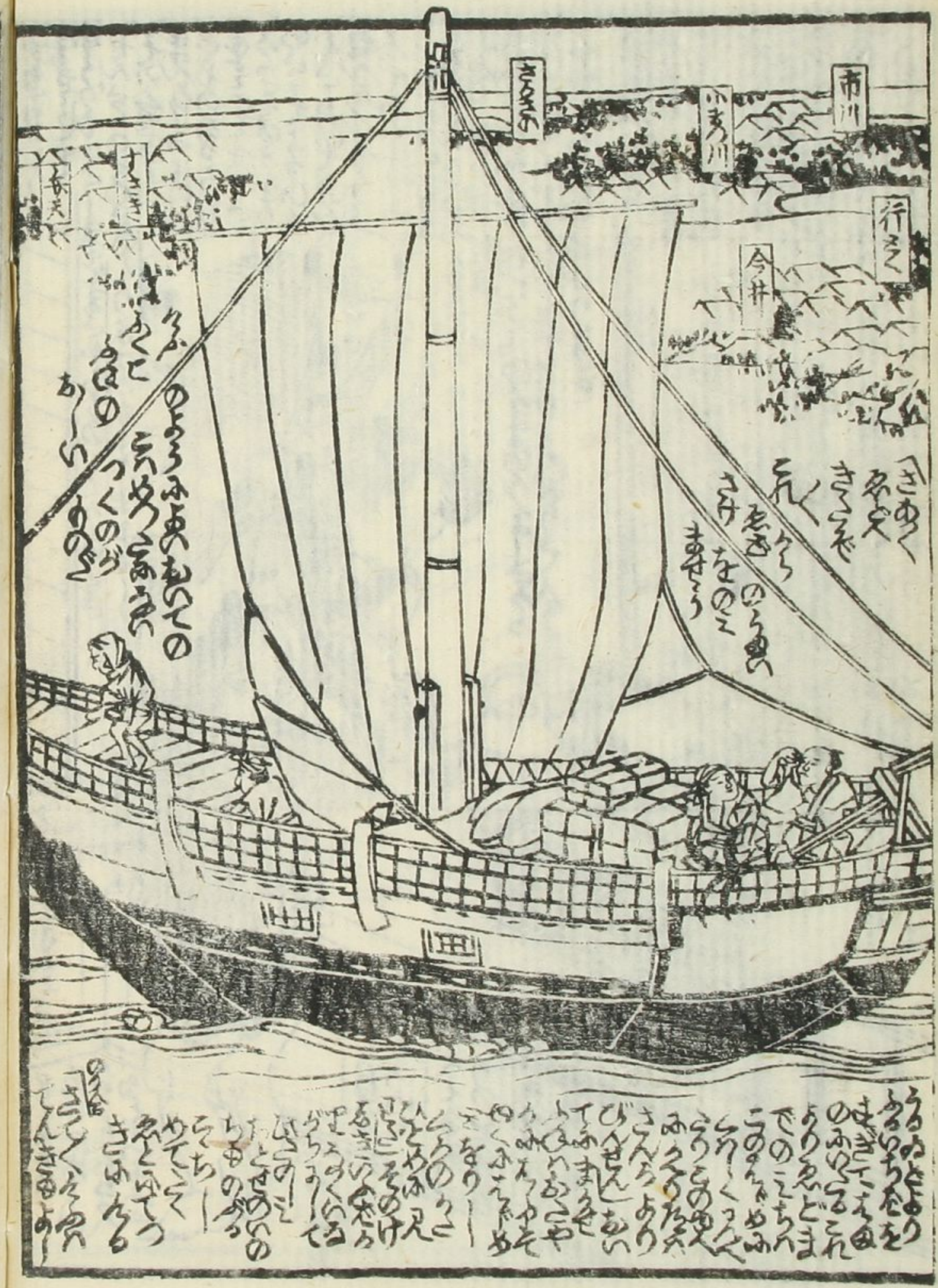
△おれはさういふおれはさういふ  
 多きまをいふまをいふ  
 二のえらまをいふ  
 それらうちのえらまをいふ  
 のうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ



おれはさういふおれはさういふ  
 多きまをいふまをいふ  
 二のえらまをいふ  
 それらうちのえらまをいふ  
 のうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ

おれはさういふおれはさういふ  
 多きまをいふまをいふ  
 二のえらまをいふ  
 それらうちのえらまをいふ  
 のうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ  
 ろうちのえらまをいふ

徳川列船の船名と船主







早稲田大学図書館

011688991970